

# 令和6年度 大和高田市立高田商業高等学校 学校評価 総括表

学 校 運 営 計 画 ( 4 月 )

評価 (3月)

学校経営方針	○基礎・基本的な学力・生活習慣を身につけさせると共に、健康に留意し、人権を尊重できる生徒を育てる。 ○国際的視野を備え、協調性に富み、進取の気性を持って時代の変化に柔軟に対応できる生徒を育成する。			B
年度重点目標	具体的目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の充実</li> <li>・生徒指導の充実</li> <li>・人権教育の充実</li> <li>・進路指導の充実</li> <li>・資格取得指導の推進</li> <li>・部活動の活性化</li> <li>・学校、家庭、地域の連携と協働</li> <li>・学校の安全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の学力の定着を図るとともに、課題発見及び課題解決能力、コミュニケーション能力と自己有用感を育成する。</li> <li>・基本的生活習慣の確立を図り、社会の一員としての自覚を深め、自らの行動に責任を持ち、自己を生かす能力を育てる。</li> <li>・適正なSNSの利用など、人権意識の向上を図るとともに、いじめの早期発見、早期対応に心がけ、きめ細かい指導に努める。</li> <li>・自らの生き方を考え、社会的、職業的に自立ができるように計画を立案し、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。</li> <li>・上級資格の取得や英語検定に向けた取り組みの充実を図る。</li> <li>・「部活動に係る活動方針」に則り、部活動の充実・活性化により、心身両面の成長と知・徳・体のバランスの取れた人間力を育成する。</li> <li>・保護者との連絡を強化し、開かれた学校として、情報発信を積極的に行い、地域との連携を一層充実させる。</li> <li>・施設・設備の安全管理や通学路の安全点検を実施し、事件・事故防止に万全を期すとともに、危機管理意識の高揚を高める。</li> </ul>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	
第1学年	基本的な生活習慣の確立と、忍耐力を身につけて、充実した学校生活を送らせる。	規則正しい生活を送らせ、健康的で活力ある学校生活が送れるようになり、取り組み、部活動等も積極的に取り組ませる。	B	規則正しい生活習慣を身につけさせ、自分の体調をしっかりと管理できるようにする。  修学旅行や学校行事に積極的に取り組ませ、充実した学校生活を送れるように取り組む。  学習や検定取得の意欲を高め、早い段階から進路を意識させ取り組ませる。
		ホームルーム等で人権学習や道徳教育をおこない、人間関係の構築を積極的に自ら進んでおこなえるように環境を整える	B	
	自ら学習する習慣を身につけさせ、基礎を大切に、自己の進路に繋がられるようにする。	落ち着いた学習に取り組める環境を作り、学習する意欲と習慣を身につけさせるとともに、教室の美化にも務める。	C	
		学習意欲や検定取得への意欲を高め、自主的に取り組むことができ、早い段階で自己の進路を意識させ、目標に向けて学習に取り組めるように指導する。	B	
第2学年	中堅学年として、自覚を持って部活動や学校行事に取り組ませる。また、学年や学級のリーダー育成に努める。	規則正しい生活習慣を身につけさせ、年間の遅刻、欠席の総数を減らすことを目標にする。	B	昨年度より欠席・遅刻ともに減少したが、まだまだ安易に欠席遅刻する生徒もいるので、最終学年に向け意識を高める。学校行事については、生徒たちが中心になり企画運営し進めることができた。  安全に行程を終了し、生徒にとっても充実した修学旅行になった。  上級検定ははじめ検定全般の取得に関して結果は厳しいものになった。しかし、取り組む過程において、教員と生徒とが前向きに取り組んだ。何とか3年次では結果を出せるようにしていきたい。  志望動機を書かせたり、大学入試を調べさせるなど早期の対策に取り組んだ。
		学校行事やHR活動等を計画的に準備する中で、自ら考え、皆が意欲的に取り組めるように心がけ、リーダーシップを身につけさせる。	B	
	修学旅行を成功させる	修学旅行が安全に実施できるように計画を立て、生徒らが自ら企画し、充実した修学旅行にする。	A	
	早い段階から進路の実現を意識させ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。各種上級検定取得を目標に、日々の授業や補習に意欲的に取り組ませる。	日商簿記検定2級やステップ英検2級などの上級検定を取得させるために各検定科目の補習や個別指導等を学年としてサポートするとともに、合格に向けた学級の雰囲気作りや、個々の生徒の意識づけを行う。	B	
		進路目標をできるだけ早く設定させ、自ら意欲的に調べさせ、その目標に向けての具体的な取り組みをはじめさせる。	A	
自主的に学習する意欲を育てる。	B			

第3学年	進路実現に向け、自ら計画的に準備させ自主的に取り組ませる。	各クラス・進路指導部・学年が連携して、生徒の進路実現のために尽力する。また、卒業後も目標をもって生活できるように、それぞれが自立できるように指導する。	A	A	先生方の協力があり、何とか進路実現に向けて取り組めた。生徒は夏ごろまで自発性に欠けていたが、担任を中心に粘り強く指導した結果、少しずつ危機感をもつようになった。もっと早い段階で気づけるように指導する必要を感じた。また、自立に向けては課題が残った。
	最高学年として部活動や諸行事で中心となり、リーダーシップが発揮できるように指導する。	高校生活最後の学校行事が思い出に残るように、リーダーシップを発揮させ、準備を入念に行う。また計画性をもって諸行事を進められるように取り組ませる。	A		
	基本的な生活習慣と社会人としてのマナーを身に着けさせる。	規則正しい生活習慣を意識させ、欠席や遅刻、早退を極力少なくし自己の体調管理ができる資質を身につけさせる。 礼儀正しく、元気よく生活できるように指導する。	C B	B	
教務	特色ある学校を目指し、教科学習の学力充実と指導力の向上に努める。	ICT機器を効果的に活用し、主体的、対話的で深い学びの推進に向け、また指導力向上に向けて各教科で研修を行う。 貸出用PCの貸し出し方法を見直し、破損や紛失がないように工夫する。 家庭学習の習慣をつけるための取り組みを行う。	B A B	B	各教科でICT機器の利用は進んでいる。今年度はPCの貸し出し方法をクラスごとにした結果、紛失はなかった。生徒たちが途中で充電がなくなることも多く、充電方法を考えたい。 各先生方の事務処理は軽減された。Web出願システムも試行錯誤しながら実施できた。しかし、教務の数名の先生方の負担は増大した。教務内で負担を分散できるように考えたい。
	教育活動の円滑な推進に取り組む。	校務支援システムやクラスルーム、ロイロノート等を活用し、事務処理負担が軽減されるように取り組む。 Web出願に向けての準備に取り組む。	A A		
	生徒指導	規範意識の醸成を目指し、規律ある高校生活を確立させる。	欠席に対する意識を高めさせ欠席総数の減少に努める。また、感染予防対策を徹底し体調管理に努める。 通学路の確認を行い、通学マナーの向上に努める。 問題行動の減少に努めるとともに規範意識の向上を目指す。	B B B	
特別活動の充実を図る。	われら人間創造を活用できるLHRの時間を確保し、道徳心を養う。 高い目標を持って、全国大会、近畿大会出場、入賞を目指して取り組ませる。	A A	A		
道徳教育の充実を図る。	いじめをなくし、豊かな人間性を目指すとともに思いやりのある生徒を育成する。	B	B		
ボランティアの充実を図る。	ボランティア活動への参加を呼び掛けること、ボランティア精神を養わせる取り組みを行う。	B	B		
安全教育の推進を図る。	防災・防犯意識を高めさせ、危機管理意識の醸成に努めさせる。	A	A		
校内や通学路の美化に努める。	校内清掃を徹底させ、校内美化に努める。 校内の緑化を充実させる。	B	B		
校則の見直しや制服の変更を行う。	時代に見合った校則の見直しを行っていく。	A	A		

進路指導	生徒の実態と希望に応じた進路指導の実現を目指す。	4年制大学進学希望者の内、国公立大学及び難関私立大学の合格者を30名、中堅私立大学以上の合格率を70%以上を目指す。	A	A	進学、就職とも目標を達成することができた。引き続き単純に数を目指すのではなく、キャリアの一環としてどのような進路を目指すかも含め、生徒たちの希望に寄り添えるよう努める。	
		希望する職種の確保、優良就職先の継続、卒業生の離職の減少のため、積極的に企業訪問を行い早期に就職決定率100%を目指す。	A			
	積極的な進路情報の提供。	全職員の共通理解を目指す。負担の軽減を目指し、外部の人材も活用し、取り組める人間で小論文や面接等の指導に取り組む。	B	B		職員間の共通理解には遠く及ばなかった。教員の目指すべき目標の設定ができていない。情報の共有化については具体的な手法に取り組むところまで進んでおり、次年度実行に移していく。
		企業および大学訪問を積極的に推進し、生徒が進路を選択しやすい情報を収集してデータの共有できる体制を構築する。	C			
		高田商業を希望する前後の層に進路実績等を積極的に提供し、選ばれやすい高校を目指す。	C			
	キャリア教育の推進。	早期から進路に対する関心や意識を持たせ、様々な活動を通して、生徒一人一人に応じた指導を行い、しっかりとした勤労観や職業観を養う。	B	B		定例化しているガイダンス等を積極的に見直す。業者からの提案をより積極的に誘発し、生徒の満足度の高いものを提供する。教員にも引き続き機会を提案する。
学内外との関わりを持つ機会を積極的に紹介し、研鑽に取り組む教員の増加を目指す。		B				
文化厚生	図書館の利用や貸出冊数を増加させ、読書習慣を身につける。	図書委員を中心に充実した活動を継続する。図書館利用の広報活動を行い、図書貸出冊数の増加を目指す。また、自習室としての機能の充実に努め、図書館利用者数の大幅増加を図る。	A	A	図書利用を推進し、図書館活動を活性化させる。また、自習室としての機能をさらに充実させる。受験対策としての機能を充実させる。利用者数の目標をさらに伸ばす取り組みを行う。	
	文化部活動を活性化し、充実させる。	部活動を充実させ、近畿・全国大会出場20名以上及び上位入賞を目標に積極的な活動を行う。	A	A		近畿・全国大会の出場を目指し、全国大会出場を念頭に更にレベルアップをはかる。また、部員数の確保にも積極的に取り組み、活発な活動をめざす。
	文化的行事を活性化させ、更に充実した内容にする。	舞台発表のクオリティを上げ、見応えのある舞台にすることを目標として活動する。また文化部の発表も積極的に行う。	B	B		舞台出演を計画的に取り組み、クオリティの高い舞台を目指す。またクラス全体の親睦、協力や協調性を養う。
		計画的に企画・運営を行い、文化委員に役割と自覚を促し活発な活動を目指す。また、販売品目・販売方法を工夫し、スムーズな運営を行えるように計画する。	A			
	広報活動を積極的に行い、成果を上げる活動を行う。	学校新聞や学校パンフレットの内容を精選・改良し、積極的な広報活動を効果的に行うことを目指す。	B	B		広報活動として、学校新聞や学校パンフレット等の構成・コンテンツ等さらに検討し、詳しい学校活動、わかりやすく広報ができるように考慮する。

保健体育	体力向上を目指した授業に取り組む	スポーツテストでA判定を160名以上目指す。	A	B	A	スポーツテストでのA判定が162名と目標を達成することができた。1年生入学時は体力低下が著しく特に男子生徒のA判定者が2・3年生との差が大きく感じる。在学中にA判定を含む体力の向上に取り組めるようにする。	
		スポーツを通じて心身共に鍛え、怪我の防止に努める。	B				
		安全にスポーツが行えるように環境整備に取り組む。	B				
	健康教育の推進	健康意識を高め、感染症の予防に努める。	A	A			外部講師を活用したがん教育を実施することができた。インフルエンザの蔓延が見られたものの、感染症の罹患者が昨年度415名が今年度150名へと大幅に減少した。
		外部講師を活用したがん教育の実施	A				
		学校保健委員会に向け、資料や情報を整理し、健康への意識を高める。	B				
部活動を通じてバランスのとれた生徒の育成	全国大会や近畿大会の出場選手を延べ250人以上目指す。	A	A	全国大会や近畿大会の出場選手が273名と多くの生徒が活躍し、目標を達成してくれた。近畿大会や全国大会への出場こそ逃したものの、県で常に上位進出するなど多くの部活動が活躍してくれた。また、部活動に懸命に取り組みながら、資格取得や地域活動にも積極的に取り組む生徒			
	学校生活と競技力の向上にバランスよく取り組ませる。	B					
人権教育	人権尊重の精神を養い、自他の人権を擁護する実践的な行動力を育てる。	人権教育を率先して推進する立場の教員が自らの人権意識を向上させるために、随時情報を公開し、研修の機会を設ける。	A		B	B	
		自分の大切さとともに、他の人の大切さも認められるような環境づくりをあらゆる教育の場で進めていく。	B				
		教育相談活動の充実を図るとともに、スクールカウンセラーや養護教諭からの情報を全職員で共有し、生徒理解に努める。	B				
	人権ホームルームにおいて生徒の関心・感性に訴える教材を提供し、生徒が主体的に取り組めるようにする。	ホームルームにおける人権学習の時間数の確保を目指す。	A		A		年間計画をもとに、生徒の身近な問題を取り上げることで人権意識を育む。
		年間計画に基づいて各学年に指導案を提示する。	A				
		社会的な問題や身近な問題をテーマにして、生徒の心に届く内容を扱う。	B				
商業科	上級資格検定の取得を目指す。	2年時に全商1級3種目以上取得者180名、3年時は190名以上と取得率を目指すため、検定取得に向けた補習を計画的に取り組む。	B	B	B	検定取得に向けて、高い目標を個人で設定させ、達成に導いていけるようにする。	
		日商簿記やITパスポートの必要性を伝え、昨年度より合格者を増やす。	A				
	ビジネスプランに基づいて知識と技術を習得させる。	ビジネスコンテストなどの情報を収集し、参加を促すように努める。	C	B			
		産業教育フェア等を利用し、地域の方との活動を行い、生徒の多様な進路に向けたスキルの向上に向けた取り組みを目指す。	B				
中高連携により、商業教育の内容を発信する。	中学校等でビジネス講座を行うことにより、商業の学びを深める取り組みに力を入れる。	A	B	地域との連携で、企画立案し取り組めるように、環境を整える。			
					単年だけの取り組みで終わるのではなく、課題を継続的に追求し、充実したものにする。		